

## お客様との関わり

### 品質・安全への取り組み

#### 株式会社J-オイルミルズ 品質方針

私たちは、「安全・健康・環境」を意識した事業を展開し、「価値ある」商品とサービスを継続的に提供することにより、お客様の豊かな食生活と健康に貢献します。

#### 基本方針

- お客様の要望を真摯に受け止め、適切な情報を提供し、お客様に満足いただける商品・サービスをお届けします。
- 食品安全の確保は食品企業の責務であることを銘記し、関係法規を遵守します。
- 国際標準であるISO9001を基本にして、品質保証システムを確立して継続的な改善を行い、品質を保証します。
- 研究・開発から生産・物流・販売・サービスに至るまで、品質の向上を目指して社員一人ひとりがお客様の信頼にこたえていきます。

2005年10月制定

#### 品質マネジメントシステム

J-オイルミルズでは、安全・安心で高品質な商品およびサービスを提供するために、「品質保証規程」を定め、社会的信頼に応える事業活動を展開しています。品質マネジメントシステムの国際規格である「ISO9001」の認証をすべての生産工場で取得し、また、HACCP<sup>\*1</sup>の導入や食品衛生法で定められた衛生管理や施設基準を適切に遵守するなど徹底した品質管理を行っています。さらに、食品安全マネジメントシステム「ISO22000<sup>\*2</sup>」の認証を2009年度中にすべての生産工場で取得することを目標に活動を展開しています。

#### 品質管理体制の定期監査

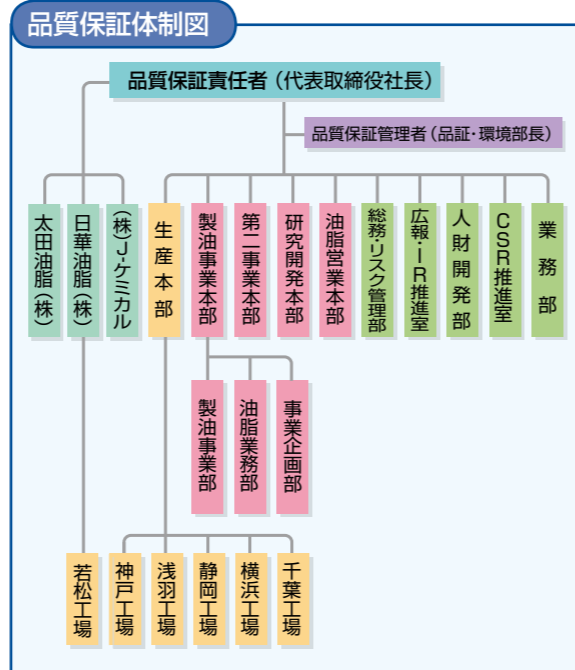
当社では、定期品質監査計画に基づき、全工場におけるISO9001の運用状況確認と食品衛生レベルの向上と安全の確保を推進するため、2007年度は品証・環境部による定期監査を6工場(関係会社を含む)9ヶ所で行いました。また、前回監査の是正措置の実施確認も行いました。

#### ISO9001の外部審査結果

工場名	審査日	審査名	審査結果		審査機関
			不適合	観察事項	
千葉工場	2008年 2月 5日～6日	維持審査	軽微な不適合 1件	3件	ビューローベリタス ジャパン
横浜工場	2008年 2月 5日～6日	維持審査	0件	4件	
静岡工場(浅羽工場を含む)	2008年 2月 25日～27日	更新審査	0件	14件	
神戸工場	2007年 10月 16日～17日	維持審査	0件	3件	
日華油脂(株)若松工場	2007年 6月 7日	維持審査	軽微な不適合 1件	0件	ペリージョンソン

\*1 HACCP (Hazard Analysis and Critical Control Point) : 食品を製造する際に工程上の危害を起す要因 (hazard: ハザード) を分析し、それを最も効率良く管理できる部分 (Critical control point: クリティカルコントロールポイント=必須管理点) を連続的に管理して安全を確保する管理手法です。

\*2 ISO22000 : ISO (国際標準化機構) が作成する食品安全マネジメントシステム規格です。食品安全ハザードのリスク分析の手法を HACCP から、品質マネジメントシステムの考え方を ISO9001 から取り入れています。



#### 品質確保のための取り組み

J-オイルミルズでは、右表に示したように商品の品質管理に対する各種教育研修を定期的を実施し、品質に対する感度アップを図っています。最近では営業担当者も惣菜管理士の資格取得を通じて、品質に関する知識取得にもチャレンジしています。

生産部門では、2006年度に商品回収が3件発生したことに対する反省と再発防止に向けて、食品安全研修を実施しました。工場で生産に携わるすべての従業員を研修の対象として工場別に延べ15回、536名が参加しました。

研修では、社内外で起きた身近で具体的な「失敗事例」を取り上げて、その原因には、

- ①設備に起因するもの
- ②人に起因するもの

があることとともに、それらを「失敗知識」として伝達していき、同様な失敗が繰り返されることが無いよう共有化しました。

また、「なぜ失敗は起こるのか？」という基本から「失敗学」で教訓とされている「失敗を防ぐための3つのポイント」までを真剣に考える機会を持つことができました。

#### 製品トレーサビリティシステム

当社では、商品ごとに追跡調査を可能にする製品トレーサビリティシステムを構築しています。油脂製品は搾油工程、精製工程、計量・充填工程を経て製造され、最終品質確認後にお客様にお届けしています。

穀物専用船で海外から運ばれてくる原料は、船名と荷揚げ日を原料サイロごとに記録し、管理しています。

搾油工程では、使用した原料サイロ名、製造条件や製造管理状況(所定の品質分析結果を含む)、そして分取した原油を投入した原油タンク名を記録し、管理しています。

精製工程では、使用した原油タンク名、製造条件や製造管理状況(所定の品質分析結果を含む)、そして精製油を投入した製品タンク名を記録し、管理しています。

精製油は製品タンクごとに管理しています。充填、

#### 2007年度 品質管理に関する教育研修の実績

研修名	内容	延べ人数
外部セミナー	食の安全、リスク管理、他	7名
食品衛生教育	ミール製品の衛生管理	30名
	食品衛生全般	370名
社内勉強会	営業部門の新商品勉強会	189名
	食品特性勉強会	60名
食品安全研修	社内講師による食品安全・失敗学	536名
	DVDビデオ教育	60名
コンプライアンス研修	食品衛生法、JAS法	1,435名
工場見学会	食品他工場の見学会	19名
内部監査員研修	監査員養成&実力向上	38名
惣菜管理士(1級)	資格取得試験合格	6名
惣菜管理士(2級)	資格取得試験合格	8名
惣菜管理士(3級)	資格取得試験合格	22名

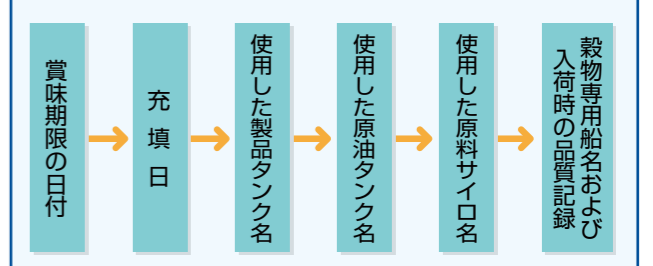


社内勉強会(横浜工場)

出荷に際し使用した製品タンク名を記録し、管理しています。

個別容器製品については、油を充填した時点で賞味期限を印字しています。個別容器製品のトレーサビリティは、賞味期限の日付によって原料までのトレース(追跡)が可能です。

#### 製品トレーサビリティのフロー



#### 2007年度 商品回収報告

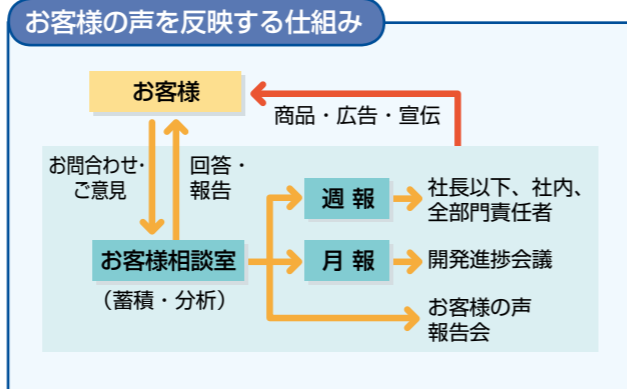
年月	内容	原因と回収経緯	対応および結果
2007年7月	神戸工場製品に異物混入	2007年6月に実施した配管工事後の洗浄が不十分であったと考えられ、工事の際に生じた金属粉が製品に混入した可能性が否定できないため、同年7月初め製造の出荷済み製品を流通回収したが、そのうち11本が既に店頭販売済みであった。	・販売地域が限定されていたため地域限定で新聞社告を出して回収 ・工事に関するリスクマネジメントの強化 ・設備技術者、工事業者の技術向上

## お客様とのコミュニケーション

### ● お客様とのコミュニケーション

J-オイルミルズでは、商品を安心してご使用いただけるように、ホームページなどで商品別にお問い合わせ先をご案内しています。2007年度は国内で食品に対する信頼性が失われるような企業不祥事が多く発生し、その都度、当社へもそれに関連するお問い合わせが多く寄せられました。

商品を通じてお客様とコミュニケーションできることは、お客様が望んでいる商品を開発する上でも非常に大切な情報源になっています。お客様からいただいた貴重なご意見は、3ヶ月に一度、「お客様の声報告会」を開催し、関係部署（開発企画・研究開発・生産・資材調達・営業など）と情報の共有化を図り、「お客様からの声」を商品の改善・改良・開発などに活かしています。



#### 油脂商品に関するお問い合わせ先

お客様相談室 TEL : 0120-211228 (フリーダイヤル)  
(平日 午前9時30分～午後5時)

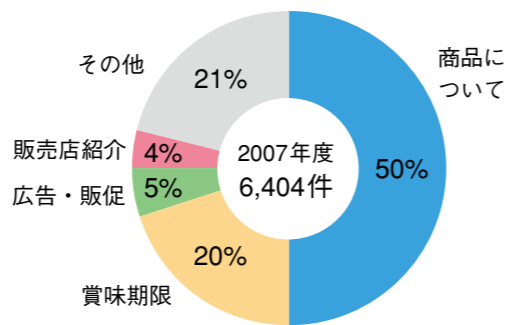
#### マーガリンに関するお問い合わせ先

お客様相談室 TEL : 0120-936734 (フリーダイヤル)  
(平日 午前9時30分～12時/午後1時30分～5時)

#### 栄養補助食品に関するお問い合わせ先

健康食品消費者室 TEL : 03-5565-1498  
(平日 午前9時30分～12時/午後1時30分～5時)

#### お問い合わせ・ご意見内訳



### ● 商品についてのよくあるご質問とそのお答え



ご質問①

オリーブオイルの瓶の下の方に白いおりのようなものがありますが、大丈夫でしょうか？

- ▶ オリーブオイルの中に低温で固化する成分があるため、暖かい部屋でしばらく放置していただくか、瓶をぬるま湯につけて下さい。温度を上げれば元の清澄な状態に戻り品質に問題はございません。



ご質問②

さらさらキャノーラ油はドレッシングに生で使えますか？

- ▶ サラダなどの生食はもちろん炒めもの、焼きもの、揚げものなどあらゆる料理に使用していただけます。



ご質問③

油は期限が切れてどれ位使えますか？

- ▶ 賞味期限の切れたものを召し上がることはお勧めできません。お住まいの自治体の定める方法に従ってご処分下さい。

HP <http://www.j-oil.com/qa/index.html>

## お客様の声を反映した改善事例



お客様の声①

重い1,000g ボトルをしっかりと持てるようにできないかしら？

- ▶ 「1,000gエコペットボトル」の取っ手部分を改良し持ちやすくしました。

1,000g ボトルはご家庭でご使用いただく容器としては、大容量の商品です。取っ手が持ちにくいと手首に負担がかかり、油を上手に注ぐことが難しいこともあります。そこで、片手で持った際にしっかりと手のひらになじみ、すべりにくい取っ手を開発しました。



お客様の声②

環境に配慮した、使いやすい容器はないかな？

- ▶ 誰にでも使いやすい「UDエコパウチ」を開発しました。

エコパウチはボトルへ入れ替えて使っていただくことを想定して開発したものでしたが、入れ替えずにそのまま使用する方々が増えてきました。そこで、環境だけでなく「できる限り多くの人が利用しやすい商品（サービス）の提供を実現する」というユニバーサルデザイン（UD）の考え方にに基づき、「持ちやすい・注ぎやすい・わかりやすい」を実現した「UD エコパウチ」を開発しました。



- キャップ付きだから、保存に便利です。
- 空気を抜いて保存すると、酸化防止に役立ちます。

**注ぎ方**

- そのままお使いの場合
- 詰め替えてお使いの場合

**使い終わったら...**

※空になったら、キャップをしめてください。

## お取引先様との関わり

### ● お取引先様との公正で自由な取引

J-オイルミルズでは、お取引先様は当社の「パートナー」であるとの視点で調達方針を明確にして、公正で自由な取引のもと事業活動を行っています。

#### 調達方針

私たちは、取引先もJ-オイルミルズの「パートナー」であるという視点に立ち、原材料、商品、サービスの購入先や業務委託先の選定においては、価格、品質、サービス等の条件を公正に比較、評価して決定します。

2005年11月 制定

### ● 良品質原料の安定確保を目指して

当社が誕生して4年になりますが、原料を巡る昨今の環境は油脂原料価格の急激な高騰やバイオ燃料との奪い合いなど著しく変化しています。

特に、産地における巨大サプライヤーの誕生は、年間200万トン超を取引する当社に対しても「供給過剰」から「供給制約」への発想の転換を迫ってきています。

そのため、良質な原料の安定確保にむけ、商社や現地サプライヤーなどのお取引先様との単なる原料売買を超えた「パートナー」としての取り組みを今まで以上に重要視しています。

商社は以前から行っている川上対策としての産地における流通設備への投資以外に、最近では畑そのものへの投資も見られます。当社はこうした商社との関係を深め、品質・数量の安定確保に努めています。また、サプライヤーに対しては、一部原料や油脂で現地とダイレクトな取り組みを進めるなど関係強化を図っています。

当社の企業姿勢を理解いただき、さらに日本の製油産業、求められる品質、顧客ニーズを伝え、地道に信頼関係を築いて、海外に少しでも多くの当社ファンを作ることが、品質を含めた原料安定確保に資すると考えています。



原料大豆の荷揚げ

### ● 製造委託先様との関わり

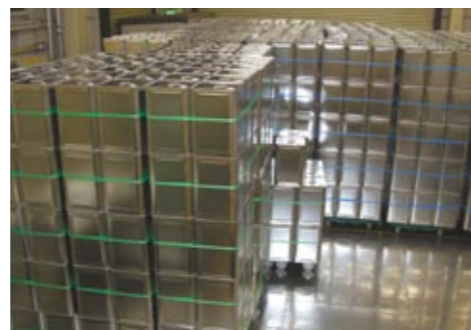
当社では一部の製品をJ-オイルミルズグループ以外の企業様に製造を委託しています。当然のことですが、委託先様で製品化された商品も自社製造したものと同等に当社の責任でお客様にお届けしているわけですので、製造委託先様にも当社と同様の品質管理をお願いしています。

2007年度は委託業務の主管部署と品証・環境部が中心となり、15社の品質管理状況を監査し、安全・安心な製品が製造されていることを確認しました。

### ● 資材取引先様との関わり

安全・安心で高品質な商品・サービスをお客様へご提供するために、資材取引先様のご協力のもと定期的に製造工程の監査を行っています。

2007年度は、資材部、品証・環境部、生産技術部、当該工場担当者がサプライチェーンの上流である資材のお取引先様を中心に23件の監査を実施しました。その中で今回は新たに取引を開始するための事前監査が8件あり、チェックリストによる重点化した監査を行いました。



入荷資材の保管状況

## 株主・投資家様との関わり

### ● IR活動基本方針

J-オイルミルズでは、株主・投資家様からの信頼を確保するため、IRについての専門組織として「広報・IR推進室」を設置しています。また業績概況・決算報告などのIR情報については、ホームページで適時公開しています。

<http://www.j-oil.com/ir/index.html>

さらに「J-オイルミルズ行動規範」では、以下の3点を定め従業員への周知徹底を図っています。

1. 適切な情報開示
2. インサイダー取引の禁止
3. 特定株主への利益供与の禁止

### ● 株主総会・決算説明会

当社では、株主総会を毎年6月に開催し、株主様に対して事業内容および業績をわかりやすく説明するよう努めています。

また、2007年度は6月と12月に、証券アナリスト・投資家の皆様を対象に決算説明会を開催し、原料の高騰を背景とした決算内容・業績予想・中期経営計画の進捗状況などに関して説明しました。



決算説明会

### ● JCR 格付け「A-」取得

当社は、2007年に株式会社日本格付研究所(JCR)より、長期優先債務格付けで「A-」を取得しました。これは企業の債務(社債)返済の確実性を10段階で評価したものです。当社の取得した「A格」は上から3番目の「債務履行の確実性は高い」という評価で、このような格付けは、企業の一般的な信用状況を示す指標としても注目されています。

### ● 配当状況

当社では、株主の皆様への利益還元を基本とし、長期的な視野に立った安定的かつ適正な配当を行うことが重要であると考えています。2007年度は中間配当・期末配当で1株当たりの年間配当金は6円でした。

### ● 株主優待制度

当社では、株主優待制度を導入しています。毎年、当社の配当基準日である3月31日時点で、1,000株以上を所有されている株主の皆様は、3,000円～4,000円相当の自社商品をお贈りしています。



株主様への贈り品(2007年度)

### ● 株主通信

当社では、株主の皆様に対する積極的な情報提供の一環として「有価証券報告書」「決算短信」「ビジネスレポート」を発行しています。また個人株主様には年2回「株主通信」をお届けして、当社の現状および今後の事業展開に関する様々なIR情報を適時・適切に開示しています。



株主通信

### ● 買収防衛策

当社では、不適切な者によって当社の財務および事業の方針の決定が支配されることにより当社の企業価値・株主共同の利益が毀損されることを防止するための対策の導入を検討してきました。

2008年6月27日開催の株主総会において当社株式の大量取得行為に関する対応策(買収防衛策)の導入について、株主の皆様のご承認をいただきました。

# 従業員との関わり

## 人事・雇用制度

### 人事理念

我々 J-オイルミルズは絶えず新しいことに挑戦する気概を育み、旺盛なる好奇心と創造性豊かな行動を通じて、個の成長と共に社会と企業に貢献できる「人財」の育成を行う。

### ● 人事制度

J-オイルミルズの人事制度は「能力への着眼」という要素を加えることにより、「仕事(役割)」のみならず、「人(能力)」にもスポットを当てた「役割等級制度」です。

具体的には個人のチャレンジングな目標設定と成果の測定を基本とした「目標管理制度」を運用し、部門目標達成のためのチームワークや努力過程であるプロセスも評価することとしています。

また、「人財」育成の観点から、「キャリア開発シート」をもとに上司との間で中長期的な自己実現プログラムを確認しあう話し合いも行っています。

#### 期待する「人財」像

- 健康で果敢に行動し、協働の精神と感謝の気持ちを持つ「人財」
- 高い意欲と何事にも挑戦する気概を持つプロフェッショナル「人財」

### ● 障がい者雇用

2008年3月現在、当社における障がい者雇用率は、民間企業の法定雇用率 1.8%を超えています。

障がい者雇用は掛け声だけでは推進できません。具体的な施策を一つずつ進めることが、勤労意欲のある方を受け入れることに繋がっていくものと考えています。

静岡工場では 2008年2月に事務所内のトイレに通じる通路に手摺を設置し、職場環境を改善しました。



新たに設置した手摺(静岡工場)

## 教育制度

### 教育体制図

	若年層	中堅層	ベテラン層	管理職層
階層別研修	新入社員研修	CDP <sup>※</sup> 研修	退職直前研修	新任管理職研修
	フォローアップ研修	現場リーダー研修		部長研修
			作業長研修	役員研修
部門別研修	営業部門			
	生産部門			
	コーポレート部門			
	開発部門			
資格取得	危険物取扱者・フォークリフト運転者・玉掛け作業員・ボイラー技師・エネルギー管理士・惣菜管理士・物流管理士など			
	海外研修			
	外部セミナー 通信教育補助			

※CDP(Career Development Program キャリア開発プログラム)：従業員の能力を長期的な計画のもとで開発するシステム・プログラム体系のことです。

## 社長表彰制度

当社グループでは、一人ひとりが「Change & Strong ~変えよう逞しく」のスローガンのもと、高い目標に果敢に挑戦しています。また、強い意志を持って地道な努力をしています。このような取り組みをきちんと評価して、チャレンジングかつ公正な企業文化を確立するために、「社長表彰制度」があり、年1回表彰しています。

2007年度の取り組みに対して、金賞1件、銀賞1件、銅賞2件、生産本部長賞1件、コーポレート部門賞1件が決まり、7月に本社で表彰式が執り行われました。



社長表彰式

## 労働安全衛生

### ● 労働安全衛生への取り組み

J-オイルミルズでは、全社的な取り組みとして「安全担当者連絡会議」や「安全監査」を実施して、各所での取り組みが一定水準以上に維持できるように労働安全衛生の向上に努めています。

一方、各所では「安全衛生委員会」の場で、個別課題や労働災害の再発防止に向けての具体的な取り組みを行っています。

2007年度はこれらの取り組み努力にもかかわらず労働災害件数が増加しました。

今後も、現場段階できめ細かい対応を継続し、労働災害ゼロを目指した取り組みを進めます。

### ● AEDの設置と講習

当社では、緊急時の救命対策としてAED(自動体外式除細動器)の設置を進めています。AEDは専門的な知識を必要としないことから、2004年から非医療従事者にも使用が認められるようになったため、今後とも年々設置数を増やしていきます。



AED講習会(静岡工場)

### 粉じん爆発事故へのその後の対応

2007年5月14日に発生した原料サイロ搬入設備での粉じん爆発事故の再発防止に向けて、当該設備の復旧工事を行いました。この取り組みを行うにあたり、厚生労働省関係の試験研究機関である「(独)労働安全衛生総合研究所」に依頼して内外の技術専門家を集めた検討チームを発足させ、原因の特定を行いました。粉じんの爆発危険性試験と現場検証結果をもとに、機械の磨耗による発熱を主原因と特定しました。

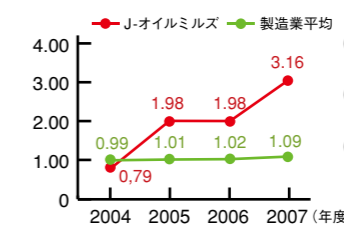
次に再発防止の観点から、既存の同種設備 205ヶ所の総点検を実施し、問題の無いことを確認するとともに、当該設備の復旧検討を開始しました。設備設計仕様に可能な限りの安全対策を盛り込み 2008年5月に新設備が完成し現在は安全に稼働しています。

さらに関係者への「粉じん爆発」に関する教育を実施するとともに、同種設備の設備点検強化(点検項目の追加と点検周期の標準化)により安全の確保に努めています。

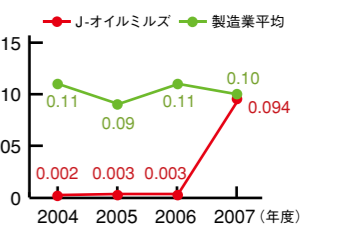
### 労働災害データ

	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
災害件数	11	21	24	27
休業災害	2	5	5	8
不休業災害	9	16	19	19

### 休業災害度数率<sup>※1</sup>の推移



### 休業災害強度率<sup>※2</sup>の推移



※2005年度以前は、生産部門データを基にその他部門の災害をゼロとした測定値です。  
※対象範囲はパート社員、派遣社員などを含む全従業員です。

※1 休業災害度数率：100万延べ労働時間当たりの休業労働災害による死傷者数で、災害の発生頻度を示しています。

※2 休業災害強度率：1,000延べ労働時間当たりの休業労働損失日数で、災害の重さの程度を示しています。

### ● 安全担当者連絡会議と安全監査

「安全担当者連絡会議」は、3ヶ月に1回全工場の安全衛生担当者が集まり、各所の活動事例などの情報を共有化して、全社的なレベルアップを図っています。2007年度は「災害報告(速報)」の手順を統一し、類似災害の発生防止に取り組みました。

また、年に1回の「安全監査」は、労働安全・生産技術・設備管理分野のスタッフによる専門性監査であり、潜在危険のチェック・評価も含め、安全を確保する取り組みを継続的に実施しています。2007年度は重点点検項目を「爆発(粉じん、溶剤他)のリスク想定と対策」として監査し、工場ごとの対応状況を確認し指導しました。

## はたらきやすい職場づくり

### ● はたらきやすい職場づくり

J-オイルミルズでは、家庭生活や仕事で多様なスタイルを持つ従業員が、安心して生き活きと仕事に取り組むことができるよう各種制度を設けて支援しています。

- フレックスタイム制度
- 育児休職・短時間勤務制度
- 介護休職・短時間勤務制度
- 母性健康管理の措置

### ● 健康保険組合の取り組み

J-オイルミルズ健康保険組合では、従業員およびその家族の皆様の健康増進に向けて、以下のような取り組みを行っています。

1. 生活習慣病検診、人間ドック
2. 健康相談・指導
3. 禁煙支援（らくらく禁煙コンテスト）
4. 育児専門誌「赤ちゃん和妈妈」の配布
5. 契約保養所
6. お知らせ（医療費通知、健保日より）
7. 貸付金（高額医療費、出産費）

健康指導では、他の健保組合との共同で2004年度から「介護健康教室」を全国各地で開催し、これまでに42名が参加しました。

また、2006年度から「らくらく禁煙コンテスト」を実施し、これを契機に7名が禁煙することができました。



育児専門誌「赤ちゃん和妈妈」

### 育児休職制度利用者の方のコメント

私は育児休職制度を活用させていただきました。過去にこの制度を利用された方がいらっしゃったので話を聞き利用させていただきました。

仕事から長く離れていたため復職前は仕事への不安もありましたが、職場の方達の理解のおかげで毎日仕事をさせていただいています。これからも育児休職を使う方が増えていけば良いと思います。

品証・環境部 お客様相談室 大橋 和美

### ● レクリエーション行事

働きやすい職場づくりの一環として、事業所ごとにボウリングをはじめ、納涼船、地引網など、労使共催のレクリエーション行事を実施し、連帯感の強化に一役買っています。

これらの行事を通して、社内のコミュニケーションがさらに深まり、逞しい会社風土の醸成を図っています。



ボウリング大会交流会（本社）

### ● メンタルヘルスの取り組み

当社では従業員のメンタルヘルスの維持向上を図るため、従来の「体の健康診断」に加え、メンタルヘルスの取り組みも進めています。これまでも、新任管理職を対象としたメンタルヘルスクエア研修や、健康保険組合の電話・面談カウンセリング窓口での対応を行っています。

2007年度からは一人ひとりがセルフチェックを行う「ココロの健康診断eMe」を導入しました。

#### ココロの健康診断eMe（イーミー）開始

「ココロの健康診断eMe」は、セルフチェックを行うことで、心の病の予防・早期発見を可能にするシステムです。セルフチェックの結果は人財開発部を通すことなく外部の専門機関から直接個人にフィードバックされます。心の病についても、予防・早期発見・早期治療が重要との考え方から、この制度を十分に活かして、健康な職場環境づくりを進めていきます。

## 社会貢献活動

### 地域社会との交流

#### ● 防火フェアへの協賛

千葉工場では春の火災予防運動期間中に千葉市消防局美浜消防署で行われる「防火フェア美浜」に毎年協賛しています。

千葉工場からは4名が参加してポスター展示やサラダ油無料配布などを行い「火災予防」を訴えました。



防火フェア美浜（千葉工場）

#### ● テロ対策訓練

2007年11月21日、静岡工場が隣接する清水港において、清水港危機管理メンバーと清水港保安委員会の主催による「テロ対策合同訓練」が実施されました。

本訓練は当社も含めて11機関、169名が参加しての地方機関で実施する訓練としては大規模なものであり、テロリストの水際阻止による安全確保のための本番さながらの訓練でした。

当社からは自衛消防隊員4名が参加し、テロリストの投げた爆発物を消防と協力して消火する訓練を担当しました。



テロ対策訓練（静岡工場）

#### ● 食育協力店

2007年10月1日に神戸工場が神戸市東灘区役所から食に関する情報の提供などを行う「食育・健康タウンひがしなだ食育協力店」に認定されました。

食品会社として、工場見学会や調理体験を通じて食育情報を発信して、地域の皆様の食育活動にご協力していきます。

#### ● 工場周辺の美化活動

当社では、地域の皆様との交流を大切に考え、清掃などによる社会貢献活動を積極的に行っています。

#### 2007年度に実施した美化活動

地域	活動内容	延べ人数
静岡	江尻漁港振興会主催、江尻港一斉清掃	22名
	工場隣接歩道・自転車道の除草および清掃	20名
	静岡市環境保全推進協会主催：三保真崎海岸清掃奉仕活動	15名
坂出	事業所周辺の除草	32名
藤沢	研究所周辺の清掃	50名
横浜	工場・研究所前の公道清掃	400名
	12社会主催の大黒通り公道清掃	4名
神戸	四工区クリーンデイ	240名
	工場周辺の美化運動	113名



美化活動（神戸工場）

### 社会貢献活動

#### ● 社会・環境活動への支援

当社では、よりよい社会の実現に貢献するため、様々な分野の団体への寄付・献金活動を実施しています。

2007年度は下記の団体に寄付・献金を行いました。

寄付・献金先	
日本赤十字社	ユニセフ
WFP協会	教育・学術研究助成
赤い羽根共同募金	障害福祉団体
オーキッドバウンティ募金	地域資源保護団体

#### ● メタボセミナー協賛

当社が協賛する「Living Health & Life フォーラム」が2008年3月17日に新宿で開催されました。

「メタボな“お父さん”の上手な健康管理方法～メタボリックシンドロームのウソ！ホント！～」のテーマで中谷内科クリニック 中谷矩章院長、帝塚山学院大学人間文化学部 小川博教授が講演した後、管理栄養士の牧野直子氏を交えての「Q & A」が行われました。